

講義番号	-
授業科目	実践コミュニケーション論 Theory and Practice of Communication
担当教員(所属)	長光 正明 [Nagamitsu Masaaki] (社会文化科学研究科系)
学期	2023年度 Q:3,4 学期
曜日・時限	水曜 5, 水曜 6
単位数	2
教室	文・法・経済学部講義棟 13 番講義室
ナンバリングコード	LCEA0ECED I ****N
印刷用ページ	https://gs.okayama-u.ac.jp/campusweb/campussquare.do?_flowId=SYW4101101-flow&nendo=2019&shozoku=0411&jikanwari=0612&sylocale=ja_JP
科目区分	専門科目
対象学生	経済学部 年次以上、工学部 年次以上
必修・選択の別	選択
他学部学生の履修の可否	原則として、経済学部 年次以上 10 名及び工学部 年次以上 10 名が基本。
連絡先	mas@optic.or.jp
オフィスアワー	授業直前後
学部・研究科独自の項目	
使用言語	日本語
授業の概要	<p>・産学連携かつ学部横断型の課題解決型学習(PBL)の手法により、アクティブラーニングを実践し、グローバル社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な「社会人基礎力」のうち、特に「チームで働く力」を鍛える授業である。</p> <p>・講義とミニ演習を通じて、チーム活動を円滑に進めるための技法、協働して独創的な発想を生み出す技法などを習得する。</p> <p>・経済学部と工学部の学生が混成チームを組み、企業が抱える現実の課題、特にグローバル視点(国際取引の企業の視点)からの課題に対し、チーム毎の解決策を考える。成果発表会では、教員など関係者を前にプレゼンし、そのプレゼン力を競うと共に、いかに協働して企業のグローバル的課題を解決したかを競う。</p> <p>・PBLテーマは下記参照(但し、変更になる可能性がある)：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放送プログラム・放送コンテンツの輸出企画(ヒアリング先協力企業のPBL) 2023年度の【Aクラス】協力企業：RSK 山陽放送株式会社 ・有望商品の実践的な輸出企画書の作成 ・有望商品の実践的な輸入企画書の作成 など <p>・授業の詳細は、次の講義サイトを参照のこと：http://www.e.okayama-u.ac.jp/practice_communication/</p> <p>・受講定員は経済学部と工学部あわせて20名(経済10、工学10が基本)</p>
学習目的	PBLによる「社会人基礎力」のうち「チームで働く力」、特にグローバル企業で実践する「チームで働く力」を身につけると共に、これを通じて、特にグローバル・ビジネス環境における ビジネス・コミュニケーション力 を修得する。
到達目標	<p>・他者の思考と自己の思考の違いを認識し、その認識を通じて他人から見た自己の価値を理解する。</p> <p>・個人の意思決定とチームの意思決定の違いを認識し、チームによる思考や意思決定のポイントを理解する。</p> <p>・チーム活動を通じて価値を導き出すことの難しさと大切さを理解し、チーム活動を円滑に進めるための技法を習得する。</p> <p>・特にグローバル社会に対応したチーム活動によるPBLを通じ、チームで課題を解決していくためのスキル及び国際取引のスキルを修得する。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・会社訪問、ヒアリング、課題解決結果の発表、コメント拝聴などを通じて、社会人のコミュニケーションのベースラインをもとに、自身のコミュニケーションを振り返り、改善点を見出す。 ・訪問企業の国際担当者とのヒアリングにより、チームでのPBLの解決案と実際に実践されている解決策と比較し最適解を構築する。 ・ESDの手法によるSDGsへ向けたグローバル的視野にたつ人材を育成する。
授業計画	<p>【Aクラス】</p> <p>第1回 10月04日(水):オリエンテーション</p> <p>第2回 10月11日(水):授業の目的</p> <p>第3回 10月18日(水):授業の意義</p> <p>第4回 10月25日(水):授業の進め方</p> <p>第5回 11月01日(水):第1課題(1-1)の説明及び協力企業ご担当者による特別講演</p> <p>第6回 11月08日(水):課題解決の話し合いと協力企業へのヒアリングの準備</p> <p>第7回 11月15日(水):協力企業へのヒアリング(予定時間13:00現地集合~16:00現地解散)</p> <p>⇒企業訪問のため、通常の講義時間の前後に時間を必要とします。なお、新型コロナの影響により中止になることもあります。</p> <p>第8回 11月29日(水):ヒアリングのまとめとプレゼン(第1課題の解決策の発表)</p> <p>第9回 12月06日(水):第2課題(2-1)の説明</p> <p>第10回 12月13日(水):課題解決の話し合い</p> <p>第11回 12月20日(水):プレゼンテーション(第2課題の解決策の発表)及び振り返り</p> <p>第12回 01月10日(水):第3課題(3-1)の説明</p> <p>第13回 01月17日(水):課題解決の話し合い</p> <p>第14回 01月24日(水):プレゼンテーション(第3課題の解決策の発表)及び振り返り</p> <p>第15回 01月31日(水):成果発表会@文法経講義棟12番講義室(予定)</p> <p>第16回 02月07日(水):振り返り</p>
授業時間外の学習(予習・復習)方法(成績評価への反映についても含む)	<p>授業時間外の学習は必須である。</p> <p>授業の振り返りとPBLテーマに関するレポート及びグループワーク。</p> <p>成績評価に反映する。</p>
(1)授業形態-全授業時間に対する[講義形式]:[講義形式以外]の実施割合	10% : 90%
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-協働的活動(ペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)	多い
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-対話的活動(教員からの問いかけ、質疑応答など)	多い
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-思考活動(クリティカル・シンキングの実行、問いを立てるなど)	多い
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-理解の確認・促進(問題演習、小テスト、小レポート、授業の振り返りなど)	多い
(3)授業形態-実践型科目タイプ	Bタイプ(社会連携の実践活動を一部取り入れている)

(4)授業形態-履修者への連絡事項	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム(各チーム4人前後)作業の体験を通じたコミュニケーションを体験的に学ぶ。 ・企業の実際の課題に対して、社員になったつもりで真剣に課題解決を考える。実践的グローバル・ビジネスの課題を取り上げるため、また今まで触れる機会がほとんどなかった分野であるため、ややハードルが高いと感じるかもしれないが、学生なりの知識と感性を生かして、真剣に議論し合うことが必要。 ・出席が重視される。 ・授業時間内にチーム作業が完結しない場合は、授業時間外で、個人で予習したり、準備したりする作業と共に、チームメンバー間で連絡を取り合い、チームとしての成果の向上に責任をもつ態度が求められる。 ・講師のURLにアップしているデジタル・テキストに沿って授業を進める。そのテキストは、どこにいてもいつでも閲覧でき、予習でき、復習でき、プリントアウト可能となっている。
使用メディア・機器・人的支援の活用-視聴覚メディア (PowerPointのスライド、CD、DVDなど)	多い
使用メディア・機器・人的支援の活用-学習管理システム (Moodleなど)	少ない
使用メディア・機器・人的支援の活用-人的支援(ゲストスピーカー、TA、ボランティアなど)	多い
使用メディア・機器・人的支援の活用-履修者への連絡事項	各自のパソコン及びUSBメモリスティックの持参。
教科書	担当教員が開設しているインターネットのウェブサイトにある「 デジタル教科書 」による。
参考書等	特に指定しない。主にネット上の情報が参考書となる。
成績評価	毎回の出席は必須である。レポート、チームへの貢献度、チームとの連携度合い、チームにおける活動内容、チームによるプレゼンテーション等により総合的に評価する。 配点割合は、出席に対して70%、チームワーク及びレポート等に対して30%を基準に、総合的に判断する。
受講要件	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての日程に出席できること ・自分の行動に責任を持ち、チームに貢献すること
教職課程該当科目	該当せず
JABEEとの関連	関連せず
主なSDGs関連項目1	目標4 教育 「グローバル視点からの質の高い教育と職業志向の教育による生涯学習の機会の促進」
主なSDGs関連項目2	目標9 産業と技術革新の基盤 「多様化する産業に資する人材インフラ」
主なSDGs関連項目3	目標17 実施手段 「グローバル・パートナーシップの構築」
実務経験のある教員による授業科目	企業経営者、JETRO 貿易投資アドバイザー活動経験、国際取引関係セミナーの講師経験、商工会議所貿易専門相談員活動経験など、いずれも30年以上に渡る実務経験を有し、かつ現役。
備考/履修上の注意/	<ul style="list-style-type: none"> ・指定の期日までに、エントリーすること。 ・応募者多数の場合は、成績やエントリー内容により選考を行う。 ・履修した場合は、途中放棄はしないこと(選考に漏れた人に気の毒である)。